



室内遊戯

吉田貞

北陸路の二月は雪にあけられるといっても過言でないほど、時には美しく時には冷たく雪の自然に包まれる生活である。

雪国に育つ幼児たちは、その特権とでもいましょうか、雪こり雪合戦、雪の製作と、寒さをもとめせず雪の遊びに余念なく過すわけであるが、常に日射しあたたかい銀世界とは限らず見通しもきかぬ吹雪の日、雪どけやあま雪のためスボンや靴下にまで濡れとおる日もあり、室内での遊びが特に豊かに用意されねばならない時期である。

もちろん子どもたちは、放っておいても自然に遊びの工夫をし、限りなく遊びを展開していくが、個人差や遊びの偏頗の上から体育的な立場の上にも立ち、よりよき遊びの発展のために健康的な遊びに誘導し、積極的に参加させたいと思っている。

一、次のような観点で遊びを用意し、基礎能力を培い寒さに耐え、日々の集団生活を楽しくしたいと思っている。

- ・狭い室内で効果のあげられるもの
- ・運動量が多く寒さを忘れて楽しめるもの
- ・体力をねり、健康を増進するもの
- ・無理がなく安全性のあるもの
- ・いつでも誰とでも遊べるもの
- ・簡単に用具設備を利用し得るもの

地	床	走	跳	投	懸垂	団体
ねことねずみ 手ぎり鬼 ひょうたん鬼 横切り線鬼	取り からかい鬼 ものまね鬼	ひとり鬼 シヤガミ鬼 スキップ鬼 手つなぎ鬼 ジャンケン人	兎とび 川とび だんだんとび けんとび		相撲あそび (押し出し) 懸垂腕支持	リレー

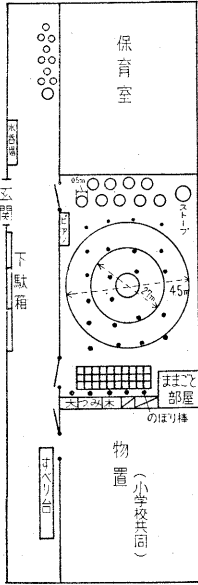
二、主として取上げられる内容は、下の表に示したとおりである。
 三、どのように遊びの工夫がなされるか

設備不十分な仮園舎のなかで

昨年度までの園舎は取りこわされ、旧小学校の狭い二教室に移転したが、再び取りこわされる運命にあり、何の設備もできない現状として、床上に最大限に角や丸をかき、大積木とともに活用し体力の増進と創造力の伸長に努力している。

大円は川とびや表現遊びの池や道になり、屈伸や跳躍・走を織り込んだものまね遊びに、小円は鬼あそびに跳や投の力試しに、最小円はさらにその線上の板の目を利用した線あそびや行進に、四角はすぐろく遊び・陣取り・方向転換遊び・一つぬき二つぬきけんとびにと多面に活用している。

大積木は構成あそびに盛んに活用されているが、巧技台の代用としてまたぎとび越し・とびおりに、また同じ高さ(三十糎)のものを部屋の長さ一杯に並べ、右から左、左から右へ腕支持とびこし



その他	ピアノ・レコード・歌	積木・平均台	紅白球・ボール	なわ	棒
椅子取り だるまさん ころんだ さんが	雪の小坊主 北風さん 雪やこんこ	球とり鬼 ころがし ドッ ボール	場所とり鬼 グザク鬼 争 からかい鬼	ぶらさがり鬼 おみこし競争	
	同上 いろいろな 木馬あそび べいと だるまさん	またぎとびこ とびおりに	とび石(なわ の輪)とび なわとび 波とび だんとび なわくぐり		
紙飛行機と ばし			球入れ 球あて 球のうけあ いごっこ ボールあて		
	いろいろなこ んべいと 竹の子一本 おしくらま んじゅ	構成あそび		つなひき	
幼児体操	フオーグダ ンス 風のこ えすお グアイヤ ンドレツ キ シ ン グ ウ テ ス キ ッ ブ ス ス		置替りレ 玉ころがし 手渡し競争	大波小波	

などいろいろと遊ばせる。なお四角の線がきは、三十糎立方の積木に合わせてかかれてあるので、併用してジグザグ跳おり跳こしなど、各種応用あそびに発展させることができる。一箱ごとにしやがむ、立つ、あるいは両手をつけて前進するなどその一つである。

こうした円や線は、数への直観を自然に培い、幼児たちが数あそびに楽しく活用しているのを見ても意義あるものと思う。

歌のある遊びやリズム遊びのなかで

・先へのべた遊びの観点に合致し、遊びの頻度の多いものに鬼あそびがある。この単的な鬼あそびも他の保育内容と連関しつつ、その経験や想像を劇化し、歌やリズムの中に遊ばせることが幼児の心理と深いつながりを持ち楽しい雰囲気の中にも効果をあげ得る。

・同じ歌や曲でも取り上げかたの工夫創作により喜んであきることなく参加できる。

・北陸路に特に発生した郷土色豊かな遊びはないが、幼児たちはいつの間にか巧みに消化し、親しみ、協索性や美しい愛情を育てつつ大きくなっていく姿から、歌あそびを大いに取り上げたいと思う。

・室内にとじこもるはけ口と教師自身甘く考え、曲をそっちのけの動きや、夢中になり過度の表現活動による疲労を来たさぬように軽快なりズムにのった生活表現をさせたい。

1、雪やこんこ

・スキップ鬼・ジャンケン鬼

狭い室内でかけまわる危険防止の面から、よい鬼あそびである。

雪あそびと名付けただけでも興味数倍し、両手をかざしチラチラ雪を表現し、曲に合わせて自由にスキップしてまわる。一曲後ジャンケンしまけて消えた雪は後手に組み、再びスキップする、次の曲後ジャンケンで勝てばまた雪にもどる。

足ジャンケン遊びを一曲ずつはさみ、最後の石・紙・鉄で勝負をきめることも非常に喜び、勝負が決まらなくとも皆がスキップでまわっている間跳躍をつづけて楽しんでる。

・ジャンケン子ふやし鬼

こどもたちは全員雪となって、前記のようにスキップ鬼をする。教師は手さげの中に霰（白玉）を用意し、握まえたものに渡していく。鬼を余り多くすると危険性もあり、五、六個の白玉を（鬼の目印）かかげつつ鬼あそびをする。時には曲をはぶき「アラレンこちら」とからかい鬼にするのもよい。なお手つなぎ鬼に発展する場合も、ルールが守れ危険性をなくすために三、四人を限度とする。

2、いろはにこんべいと、おしくらまんじゅ

腕の筋力を強め、全身を使って活潑に展開される遊びで、是非取入れたたいし、幼児たちも好んでするが失格者の活動も忘れぬこと。

3、北風さん

北風を三、四人つくる「北風北風ヒュッヒュッヒュッ。」とうたいつつ雪だるまのまわりをまわる。あとの者は連手して雪だるまを

つくり歌にあわせて手を上下する。北風はすきを見て円内に入る。ひとり入ることができたら雪だるまは吹とぶことになり、急いで安全地帯に逃げる。掴まえられたものは北風になる。

4、椅子取り

北風が腕を廻転、風を表現しつつ「お家がとんだ」あるいは「だるまさんがとんだ」と叫ぶ。家になった者あるいはだるまは急いで引越し、椅子とりをする間に北風は腰かけてしまう。リーダーになる北風は、ひとりでよい。椅子とりの失格者がひとり出るので北風となる。次々椅子の数を減らしていく椅子とりより、活動量があり冬向きである。

5、フォークダンス、その他

誰とでも仲よく協力して遊ぶ楽しさのうちに、動作をリズムカルにし、美しい情操を養いつつ全身運動として採暖できるフォークダンスは、一曲終っても次々要求して止まないものの一つである。既製の複雑なものをさげ、単純でつきつき相手がかわるようにならぬ自由な体型で楽しませる。

木馬あそびは木馬になるもの、乗るものの二人組で、ただ跳躍するのみであるが、俄然幼児の顔が色めきたつ遊びである。曲の変わり目で交替させ、過疲にならぬよう注意する。

力試しの遊びのなかに

・二月はとくに集団生活における遊びが充実する時であり、いろいろ

ろの遊びにうまく参加することにより、どの子にもやればできるという自信・成功感と、遊びへの積極的態度と興味を深め、小学校へとおくり出したい。

・危い遊びをしないように方向づける。

1、なわ遊び

波状にゆれる縄(床上)や、高さ四十糎ほどの縄にさわらないで飛びこしができる。また縄を何本か張っておき、その下を後反してぐるぐる。リズムに合わせて縄とびをする。各自の縄で円をつくり、とび石遊びをするなど縄の利用も多面に考えられ大いに活用したい

2、棒のぼり

鬼ごっこの時、棒のぼりをしている子は掴まれないことにしたり、りすや猿の木登り競争に発展すると喜ぶ。

3、紅白球・てまり・ボールあそび

投力をねる上の誰一の手軽で親しまれる遊具である。的当・球入れなどじゅうぶん取上げたい。

4、お角力ごっこ、其他

自分の力を思い切り出す遊びや、豊富に手近な遊具を利用した遊びに誘導し、教師も一つの遊具としてともに遊び、一人ひとりの個性を見抜きつつ、偏せぬよう円満に諸能力を力づけるとともに創造性を伸ばし、ルールを守り、協力性や美しい心情を育てたいと思う。

(金沢大学付属幼稚園)